

STEP RECORD

FREE MEMORY

STEP 250
1/04 000% 064

STEP TIME GATE TIME VELOCITY

DISPLAY

M=0001-01-00/96
1/04 000% 064

| STEP TIME | CLOCK | STEP TIME | CLOCK |
|-----------|-------|-----------|-------|
| 1/02 | 52 | 1/30 | 24 |
| 1/03 | 108 | 1/31 | 18 |
| 1/04 | 96 | 1/32 | 12 |
| 1/05 | 64 | 1/40 | 8 |
| 1/08 | 48 | 1/54 | 8 |
| 1/12 | 32 | 1/90 | 4 |

EVENT EDIT

MEASURE BEAT CLOCK

M=0001-01-00/96
NOTE(1) C..3 064

NOTE PROGRAM
AFTER TOUCH EXCLUSIVE
PITCH BEND MACRO 00096
CONTROL TEMPO
MODE MEASURE DURATION

SEARCH — F1 — CHANGE

| F3 | BACK | F2 | CURSOR |
|----|------|----|--------|
| F4 | PWD | F3 | -1 |
| | | F4 | +1 |

SHIFT RECORD DELETE
SHIFT STOP INSERT
SHIFT START REPLACE

TEMPO MEASURE TRACK CLOCK

DOUBLE HIT →

| SETUP | MONITOR | MIDI 1 | MIDI 2 |
|---|-------------------------------|--|--|
| BEAT/MEAS CLICK REPEAT MEM. PROTECT FOOT SWITCH LOCATE DELAY | INPUT MONITOR OUTPUT MONTR | INPUT ASSIGN OUTPUT ASSIGN VELOCITY AFTER TOUCH PITCH BEND CONTROL CHNG SYS. EXCLUSIVE | REMOTE IN REMOTE OUT ECHO DEVICE NUMBER |

SHIFT KEY →

| EVENT EDIT | MEAS EDIT | TRACK EDIT | LOAD/SAVE |
|------------------|--|---|---|
| SEARCH CHANGE | COPY DELETE REMOVE SHIFT QUANTIZE TRANSPOSE VELOCITY GATE TIME CRESCENDO CREATE | EXCHANGE COPY TR. DOWN CLEAR CUT INSERT EXTRACT CLOCK MOV THIN OUT SHIFT | TAPE SAVE TAPE LOAD TAPE VERIFY MIDI TRANSMIT MIDI RECEIVE SETUP STORE SETUP RECALL |



PLAY TR=12345678
Tr1 Tr2 Tr3 Tr4

F1 F2 F3 F4

DIGITAL SEQUENCE RECORDER

DELETE STEP BACK TIE REST

TEMPO MEASURE TRACK CLOCK DISPLAY AUTO LOCATE

EVENT EDIT MEAS EDIT TRACK EDIT LOAD/SAVE CLICK RESET SHIFT

JOG CURSOR ← →

RECORD STOP/CONTINUE START

REC MODE ENTER

YAMAHA



DIGITAL SEQUENCE RECORDER

PLAY BOOK

はじめに

本書は、実際にQ X 5を使って、いかに楽しくレコーディングをおこなうか順をおってご説明したものです。

実例にはいる前に、あらかじめ「取扱説明書」をご覧になってQ X 5の機能と操作について一通り理解をしておいて下さい。

本書ではQ X 5の基本的機能を十分に使いこなしていただけるように、4つのパートの録音をおこないながら、それを3つの方法（イベント・エディット、メジャー・エディット、トラック・エディット）を使って曲を完成させ、最後にカセットテープにセーブ（保存）するまでの内容になっております。4つのパートはそれぞれピアノ、ベース、メロディーそしてハーブの構成になっています。

〈必要機器〉

- MIDIキーボード（例：DX7やKX76/88等）
- デジタル・シーケンス・レコーダー Q X 5
- MIDI対応音源（各パート毎にMIDI 1チャンネル分の音源が必要です。）

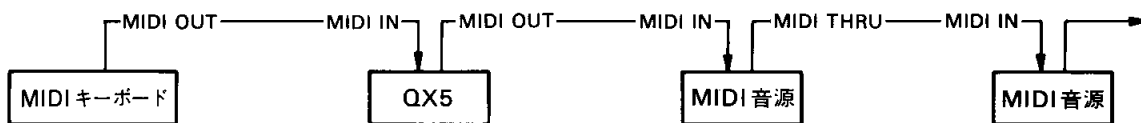
マルチボイス・トーンジェネレータ「FB-01」は最大8音色を同時に鳴らすことができます。

〈目 次〉

| | |
|----------------|------|
| はじめに..... | P 1 |
| 接 続..... | P 2 |
| セッティング..... | P 2 |
| リアルタイム録音..... | P 3 |
| ステップ録音..... | P 4 |
| エディット..... | P 6 |
| プレイバック..... | P 10 |
| カセットへのセーブ..... | P 10 |
| 練習曲..... | P 11 |

接続方法

下図のように各機器を接続して下さい。



セッティング

音源のセッティング

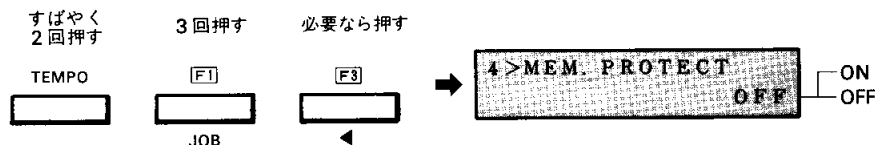
各音源のMIDI受信チャンネルをセットして下さい。(お手元の音源についてのセットの方法は各々の取扱説明書をご覧下さい。)ここでは4パートの曲を想定していますから、4チャンネル分の音源を使用します。音源を適当なミキサー/アンプに接続して音が聞こえる状態にしておいて下さい。

QX5のセッティング

以下順をおってご説明しますが、各機能の詳細については、取扱説明書をご覧下さい。

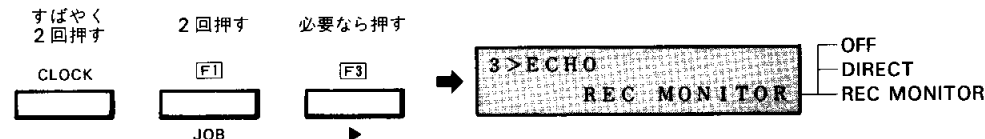
メモリープロテクトの解除

録音するためにはメモリープロテクトがOFFの状態になっていなければなりません。



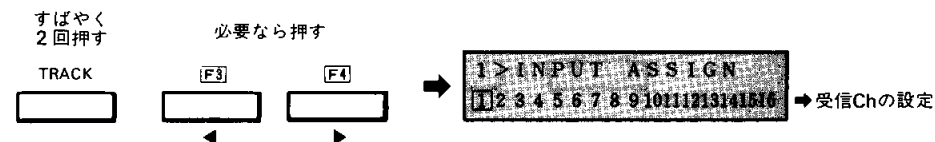
エコーモードの設定

録音中の音が聞けるように、エコーバックのモードをREC MONITORの状態にセットします。

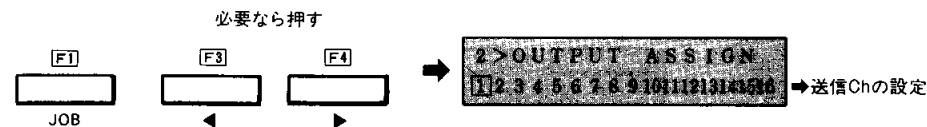


チャンネル・アサイン

QX5のチャンネル1に入ってくるデータはチャンネル1に録音されます。ディスプレイ左下の数字が“1”を示すようにセットして下さい。

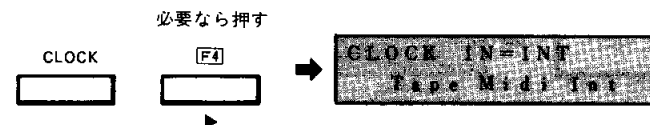


ここで[F1]を押すと、“2>OUTPUT ASSIGN”の表示になります。INPUT ASSIGNと同様に、LCD下段左端の数字を“1”にします。



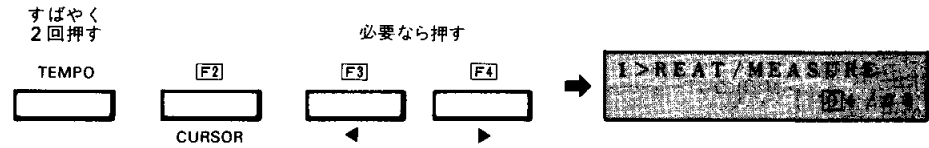
クロックの設定

クロックはインターナル・クロックを選択します。



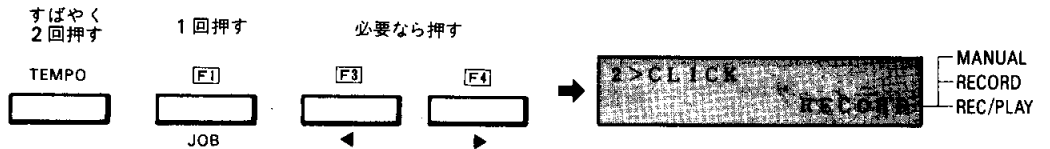
拍子の設定

これから録音する曲は4/4です。[CURSOR] キーと◀▶キーを使って拍子記号を設定して下さい。



クリックの設定

録音中メトロノームはオンにしておきます。([JOB] キーを押してもCLICKモードに入れます。)



トラック1をオン

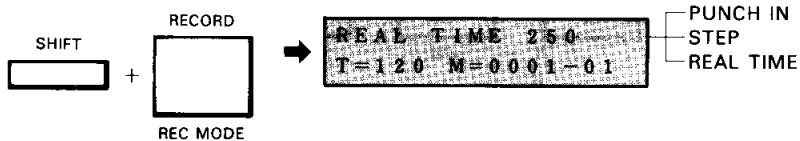
録音は全てトラック1で行われるので、オンの状態であればなりません。"*"マークはトラックがオンで録音可能な状態とデータが全然ないことを示しています。何らかのデータがある場合は"1"と表示されますが、この状態で録音すると前のデータは自動的に消えます。



リアルタイム録音

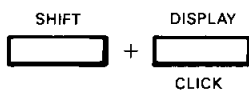
リアルタイム録音の選択

[RECORD] ボタンを押すと、LEDが点灯し、録音モードが表示されます。電源立ち上げ時は、常にリアルタイム録音になっていますが、そうでない場合は[SHIFT] + [RECORD] で切り換えて下さい。



メトロノーム・オン

メトロノームをオンにしてテンポをセットできるようにして下さい。



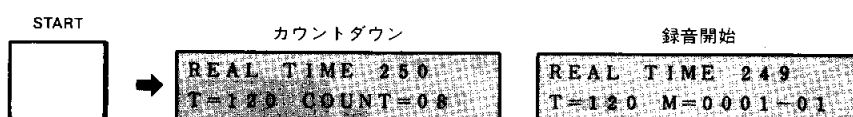
テンポの設定

クリック音を聞きながら、[F3] [F4] キーを使ってご自分が録音されるのに調度よいテンポにセットして下さい。



これで準備完了です！録音をはじめましょう！ 2小節カウントダウンした後、録音が始まります。

録音スタート



カウントダウン(2小節)の間、キーボード上の音色切換えスイッチ(プログラム・チェンジ)を押して、ピアノの音色ナンバーを録音することができます。プログラム・チェンジ・メッセージは第1小節の頭に録音されます。カウントダウンが終わってから、ピアノ・パートの演奏を始めて下さい。(もちろん、どのパートを先に演奏するかは自由です。)今DX7を弾いているとして、DX7はMIDIメッセージ(演奏データ)をチャンネル1で送っており、それがQX5のチャンネル1に録音され、チャンネル1を受信している音源が同時に鳴るわけです。

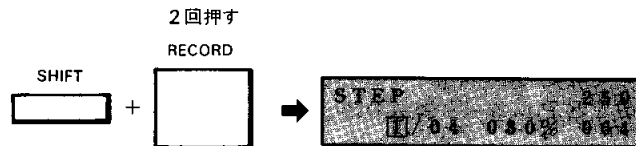
録音の終了

録音を終了するときは、**STOP/CONTINUE** ボタンを押して下さい。

ステップ録音

ステップレコーディング、リアルタイムレコーディングお好きな方法で入力して下さい。もちろん、ステップとリアルタイム録音の組合せも可能です。

ステップ録音の選択



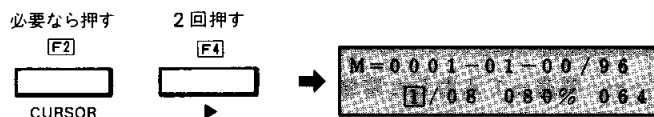
録音の開始

DISPLAY を押して、現在のポジション表示をさせながらステップ録音していきましょう。**START** ボタンを押すと、録音開始です。



音長(音符)の設定

最初に入力する音符が8分音符だとします。点滅するカーソルを **CURSOR** キーを使ってステップタイムの位置にします。次に◀▶キーを使って入力する音符(1/08)を設定します。



音程(高さ)の入力

音程はMIDIキーボードの鍵盤を弾いて入力します。ノートオフ(鍵盤を離れたこと)のタイミングで録音されますので、和音を入力する時は特に注意して下さい。

4/4拍子の時、4分音符は96クロックですから、8分音符は48クロックとなり鍵盤を押して入力した後にポジションは1/2ビート分進みます。



タイの入力

音符を入力した直後に **TRACK** キーを押すと、その音符にタイがつきます。

付点音符の入力

例えば付点8分音符を入力する場合、8分音符(1/08)を入力した後、ステップタイムを16分音符(1/16)に変更して **TRACK** キー(タイ)を押せば、付点8分音符となります。

慣れてくれば、予めその曲の最小音符にステップタイムを設定しておいて、入力する方法もあります。

上記（付点8分音符）の場合、ステップタイムを〔1/16〕に設定しておいて、先ずその音高の鍵盤を弾き、さらに〔TRACK〕キー（タイ）を2回押せば付点8分音符の入力ということになります。

休符の入力

〔CLOCK〕キーを押すと、ディスプレイ上で設定したステップタイムに相当する休符が入力されます。

（※ペロシティ、ゲートタイムレシオの設定については取扱説明書P.18を参照）

— MIDIによるクイック入力 —

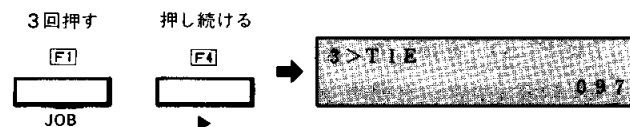
DXやKX等MIDIキーボードのコントローラーを特定して、データの入力ができます。

（詳しくは取扱説明書P.19参照）

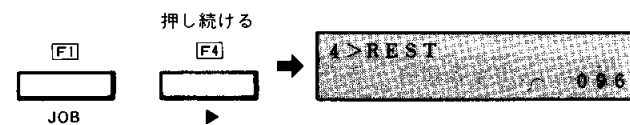
ここではデータエントリースイッチ（-1/NO、+1/YES）を使って、タイや休符を入力しましょう。

STEPレコード表示の時、〔JOB〕キーを押して設定する機能を選択します。

●データエントリースイッチ（-1/NO）を押すとタイの入力



●データエントリースイッチ（+1/YES）を押すと休符の入力



— 間違っ て入力した 場合 —

イベントデリート 〔TEMPO〕キーを押すと、直前のイベント（音符やプログラムチェンジ等）を消し、入力し直せます。

同じタイミングに和音など複数のイベントがある時は、同時にデリートします。

メジャーデリート 〔SHIFT〕 + 〔TEMPO〕キーを押すと、現在の小節を1小節分削除します。

小節の先頭にあるときは、直前の小節をデリートします。

録音の終了

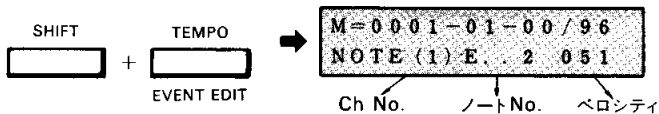
〔STOP/CONTINUE〕ボタンを押して録音を終了させます。

この後続いて録音する場合は、〔RECORD〕〔STOP/CONTINUE〕ボタンを押して下さい。

エディット

イベント・エディットの設定

録音時に、ほとんどうまく演奏したけれども35小節目で1音符間違えてしまったとします。その場合、次の様に修正（エディット）して下さい。

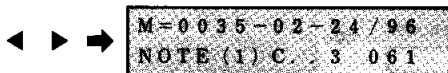


イベントのサーチ (サーチ・モード)

◀▶キーを使って間違えて入力した音符をさがします。

(この時、数字が動くだけで、カーソルは見えません。)

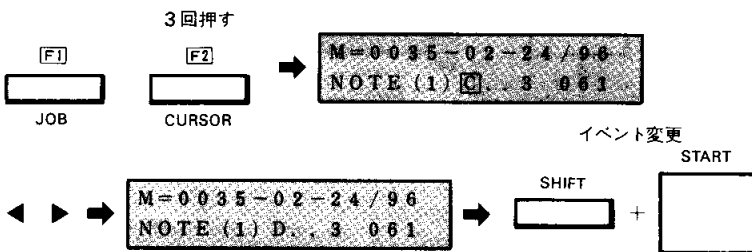
又、**START**キーを押すと、音をモニターしながらイベントを前進させることもできます。



イベントの変更

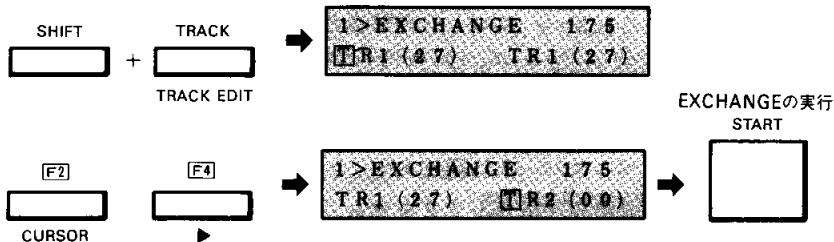
(チェンジ・モード)

ミス入力したイベントを見つけたら、**JOB**キーを押し、次に**CURSOR**キーを3回押して点滅しているカーソルをそのノートナンバーまで持っていきます。◀▶キーを使って正しいノートナンバー(D3)に変更して下さい。今C3からD3に変更したデータはバッファ(仮のメモリ)にロードされていますが、これを消してしまわないために実際のメモリーに置き換える作業が必要になります。ですから、**SHIFT** + **START**(リプレース)を押して下さい。



エクステンジ(移し換え)

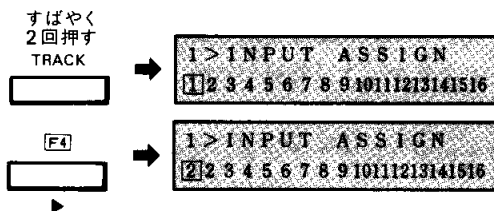
ピアノパートの修正が終了したら、それを空のトラック2に移し換え、トラック1は別のパートが録音できる状態にしておきます。(全ての録音はトラック1でおこないます。)



STARTキーを押すと、指定した作業(トラック2とトラック1のエクステンジ)が実行されます。これにより、トラック2には今録音したばかりのピアノパートが入り、トラック1は空になります。

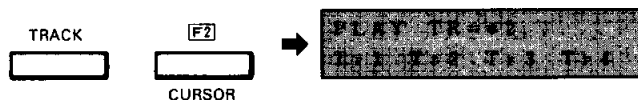
インプット・アサインの設定

お手元のキーボードのMIDI送信チャンネルがチャンネル1に固定されている場合、再度QX5のインプット・アサインをやり直して、チャンネル1で入ってくるメッセージがチャンネル2に録音される状態にする必要があります。



トラック2をオン

ピアノを聞きながらベースを録音したいのですから、トラック2（今ピアノパートが入っている）がオンでなければなりません。

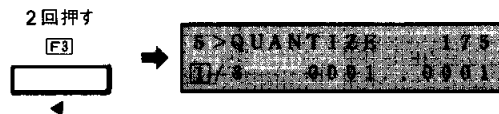
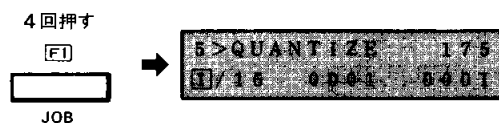
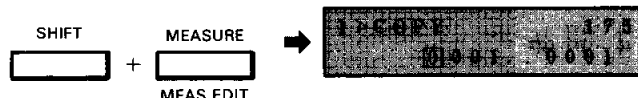


ベースパートの録音

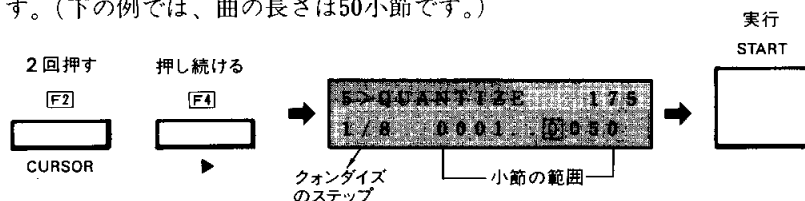
ピアノパートと同様にして、ベースパートも（リアルタイム）録音します。

ベースパートのクオンタイズ

ベースは曲におけるリズムの基礎ですからタイミングがずれていたらなにもなりません。トラック・エディット機能に従って、トラック1のベースパートを最も短い8分音符でクオンタイズして、ジャスト・タイミングに補正します。



ベースパートは全てをクオンタイズしたいわけですから、曲の最初と最後の小節を指定します。（下の例では、曲の長さは50小節です。）



エクチェンジ(移し換え)

これでベースパートの録音とエディットが終了しました。今度はそれをトラック3に移し換え（エクステンジ）でトラック1にさらに録音ができる状態に戻します。（先にP.6「エクステンジ」でご説明した通りに実行してください。）

トラック3をオン

ベースパートは現在トラック3に入っています。再生中オンにして聞けるようにして下さい。（前項「トラック2をオン」で説明通り）

インプット・アサイン

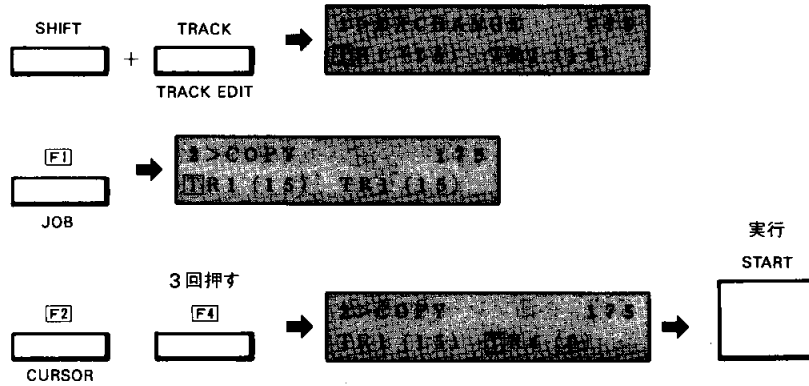
メロディーをMIDIチャンネル3で録音します。お手元のMIDIキーボードがMIDI送信チャンネルを変更できる機能を持っている場合、チャンネル3で送信するようにセットして下さい。そうでない場合は、インプット・アサインをセットして、チャンネル1に入ってくる演奏データがチャンネル3に録音されるようにして下さい。（先にP.6「インプット・アサイン」で説明した通り）

メロディーの録音

先に「録音の開始」でご説明したように、ピアノとベースの再生を聞きながらメロディーを録音します。

トラック4にコピー

通常はここで新しく録音したメロディーパートのトラック(1)を移し換えるのですが、今回はトラック1をトラック4にコピーします。これによりメロディーパートはトラック1と4に残ることになります。

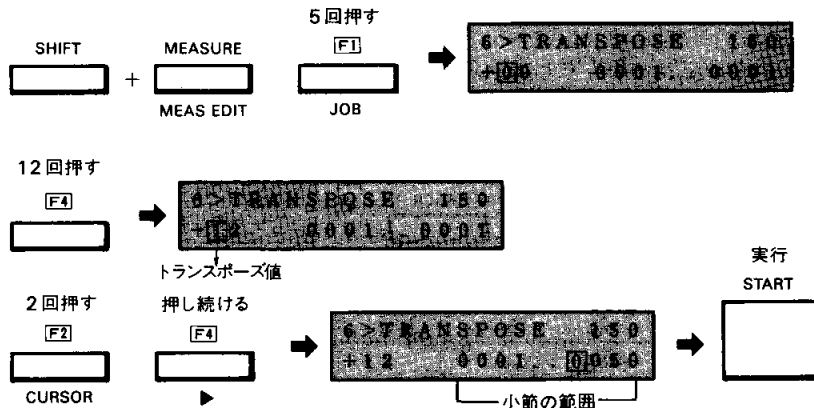


オクターブ重音メロディー

メジャー・エディットの移調機能(トランスポーズ)を使ってトラック1のメロディーを1オクターブ上げます。そしてそれをトラック・エディットを使ってトラックダウンしてトラック4のオリジナル・メロディーとミックスします。その結果、メロディーはオクターブずれた2声で演奏されるわけです。

トランスポーズ(移調)

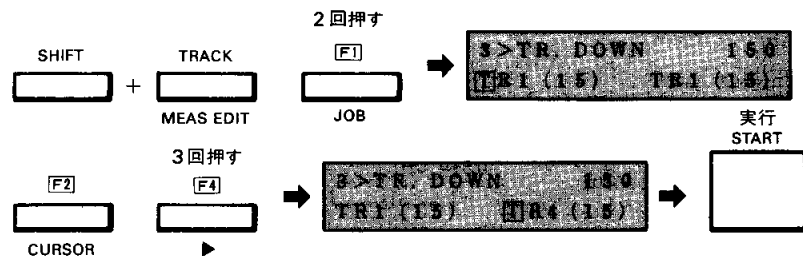
メロディーを12ステップ(1オクターブ分)上に移調させます。



トラック1と4とのミックス

今トラック1には1オクターブ上げたメロディーが入っています。これをトラック4に入っているオリジナルメロディーとミックスします。トラック4をオンにして再生中それが聞けるようにして下さい。

トラックダウン

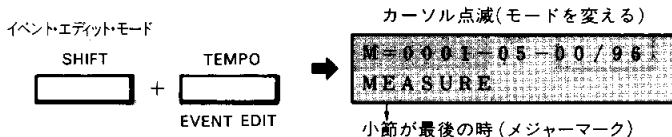


マクロ機能を使って

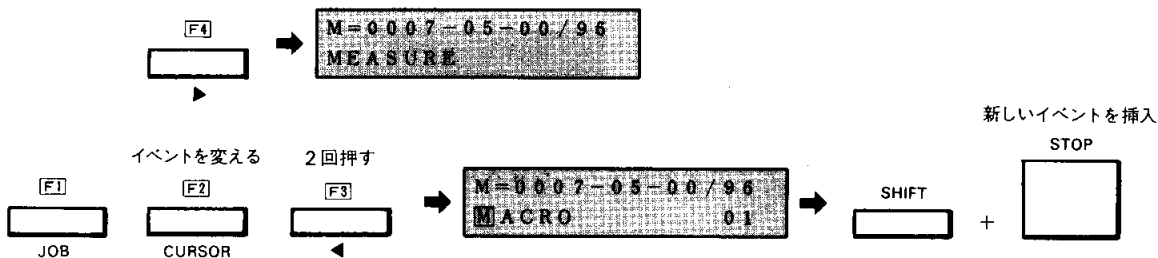
これでピアノ、ベース、そしてメロディーの各パートがトラック2、3及び4に入りました。ここでもう1つ別のパートを加えます。それは「挿入句」あるいはモチーフともよばれ、曲を通じて何度か繰り返し演奏されるものです。同じフレーズを何度も繰り返し演奏するかわりに、それを1回だけ録音して、マクロ(一種の「フローティング・トラック」)に入れ、曲の中で必要なポイントに何回でも呼び出して使います。例えば、ここではスケール上を上下するハーブのグリッサンドを想定してみましよう。

マクロ・マークの挿入

トラック1は何も録音されていない状態になっていますが、いろいろなポイントでマクロを呼び出してみましょう。



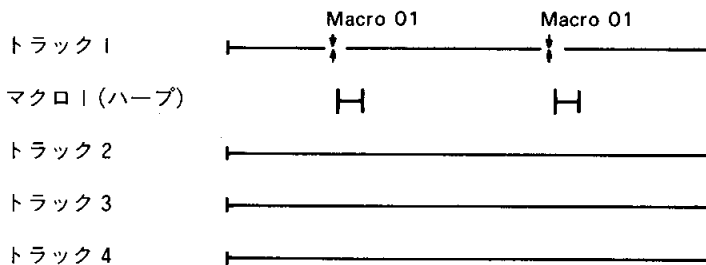
マクロを演奏させたいポイントまで移動させます。(この場合、8小節1拍目に挿入します。)



上記の方法を何回か繰り返してマクロ・マークを演奏させたい箇所に挿入していきます。

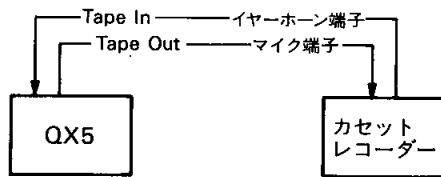
プレイバック

マクロ1にはハーブのグリッサンドが入っています。[START] ボタンを押すと、3つのパートが演奏を始めます。トラック1上にあるマクロ・マークのポイントに来ると、ハーブの演奏も始まります。

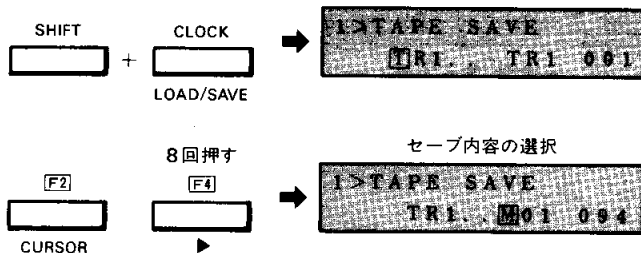


カセットへのセーブ

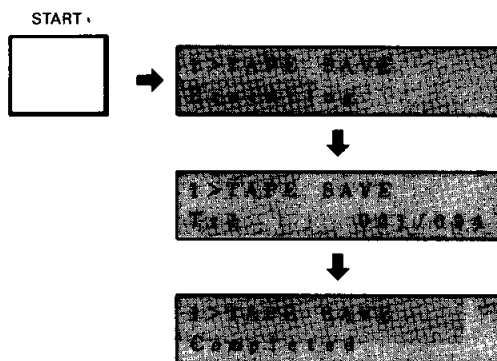
出来上がった曲(データ)をテープへ保存するため、付属のカセットケーブルを使って、カセット・レコーダーをQX5のリアパネルにあるTape In/Out端子に接続して下さい。(この場合なるべくならパソコン用につくられたデータレコーダーやテープ等をおすすめします。)



テープへセーブ(保存)



カセットレコーダーの録音をスタートさせてから、QX5の **START** ボタンを押して下さい。



逆に保存したデータをテープからQX5にロードする方法については、「取扱説明書」をご参照下さい。

＝練習曲 1＝

練習曲1はハープ、ブラス、ピアノ、ベースの4パート構成になっています。

前項までお読みいただいた録音方法、エディット方法を使い、さらに工夫して、入力して下さい。ドラムパートがくわわれば、より曲の完成度が高まります。

13(29) 14(30) 15(31) 16(32) **B** 17(33) 18(35)

Harp
Brass
Pf.
Bass

19(35) 20(36) 21(37) 22(38) 23(39) 24(40)

Harp
Brass
Pf.
Bass

＝練習曲2＝

慣れてきたら練習曲2もトライしてみましょう。

練習曲1と同じ4パート構成ですが、拍子=3/4、key=E^bになっています。この練習曲はあるクラシックの曲をアレンジしたもので、テンポは♩=72前後が適当でしょう。

The musical score is arranged in four systems, each containing four staves. The instruments are Flute, Harp (4-5 strings), Strings, and Bass. The key signature is E-flat major (two flats) and the time signature is 3/4. Measure numbers 1 through 18 are indicated above the Flute staff. A first ending bracket labeled 'A' spans measures 3 through 6. A second ending bracket labeled 'A' spans measures 11 through 12. The Harp, Strings, and Bass parts include repeat signs (double slashes) in measures 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, and 12. The Harp, Strings, and Bass parts have a 'COPY 3-10' instruction in measures 11 and 12. The Flute part has a fermata in measure 18.

B

Musical score for measures 19-30, featuring Flute, Harp (4-5 strings), Strings, and Bass. The score is in 3/4 time and B-flat major. The Flute part (measures 19-24 and 25-30) features a melodic line with various articulations and dynamics. The Harp part (measures 19-24 and 25-30) provides a rhythmic accompaniment with a steady eighth-note pattern. The Strings part (measures 19-24 and 25-30) features a rhythmic accompaniment with a steady eighth-note pattern. The Bass part (measures 19-24 and 25-30) provides a rhythmic accompaniment with a steady eighth-note pattern.

